（教育・学習機会の充実－２）

伊丹育ち合い（共育）プロジェクト
（伊丹市立伊丹高等学校）
http://sns.itamachi.jp/

〔概要〕

「若者が地域に根ざした活動で本気になれば、地域が活性化できる」という仮説を実証的に実践した取り組みです。リアルな実活動としての社会活動と、学校と地域社会とをつなぐ仕組みとして地域ＳＮＳ（「いたまちＳＮＳ」）を導入・活用し効果を上げています。全国でも希少な教育現場への地域ＳＮＳ導入事例です。地域ＳＮＳを活用し実際の活動を補完することで、生徒の自発性を生み出し、その意欲に触発され地域が変わっていくことから「伊丹育ち合い（共育）プロジェクト」と名付けています。高大連携など多様な関係性が特徴です。

〔コラム〕

本プロジェクトは、若者が自己肯定感を持てず自信を失っていることに対して何かできないかと考えました。平成１５年度から高校全校で実施されている新しい教科である情報科の授業として、地域活性化を場とし情報社会に適応する力（社会人基礎力）の育成をねらって企画しました。

地域での学びには、多くの人的ネットワークという環境が得やすいという利点があります。生徒にとって学校内だけの関係だけではなく、地域の多様な人との関わりを持つことによって、想定を越えた多くのことを学ぶことが可能となります。特に、商店街におけるイベント（ハロウィンパーティ）の場で、商店主や地域の方々との共同作業を通じて、人との繋がりや信頼・絆を体得しています。高校生以上に、この活動を通して地域の大人たちが自分の育ちを実感できており、キャリア教育として地域の活性化に繋がると考えます。

この育ち合う地域活動を支えているのが「いたまちＳＮＳ」です。平成１９年度から活用を開始しており、現在会員数が２，４８９名（高校生７１９名、卒業生１０８２名、一般６８８名、平均年齢が２３．９歳：平成２６年１月２９現在）。ハロウィンパーティを企画運用している９月・１０月では、メッセージ３，１９１件（３０６人）、コミュニティトピック閲覧総数１２，３６２件、コミュニティ返信数１，８５１件（２７０人）でした。

プロジェクトの効果としては、このプロジェクトに関わった卒業生たちが、地域活動を通じて高校生徒を支援しています。また、ハロウィンパーティでは、当時５歳で参加した子どもが、１０年後に今度は高校生として企画する側に立つというような、時間を超えたつながりが生まれていることです。伊丹に愛着を持ち、家族のような見返りを求めない人のつながりが生まれつつあります。

（取組みイメージ図）

いたみ育ちあい（共育）プロジェクト
ー商店街の賑わい復興活動を場としてー

伊丹市立伊丹高等学校
教諭　畑井　克彦

いたみ育ちあい（共育）プロジェクトとは

市立伊丹高校の教科「情報」の授業として実施。1年生6クラス、2年生・3年生は選択授業で参加。伊丹市内の商店の中から担当する商店を、1人1店舗ずつ決め、若者の視点で、その商店に貢献する何らかの企画を立案し、実行する。
その他、商店街と一緒に各種イベントを開催。最大のイベントは、10月末に行う「ハロウィンパーティ」大学生が、高校生の授業に入り込み、一緒に活動している。（関西学院大・関西大・京都大・芦屋大）

成り立ち

教科「情報」
- コンピュータスキルの取得ではなく、「情報は人と人との信頼の上にやりとりされる」ことが基軸
- 震災後のボランティア活動で培った人脈を活かしたい

地域の現状
- 近隣に複数の大型ショッピングモールが出店
- 周辺商店街の商店主の多くが市立伊丹高校出身、生徒に子弟も多い
- 他府県で高校生が商店街活性化に参画

活性化を通して地域の元気を取り戻すプロジェクト学習

育つ生徒像

「伊丹が好きやねん」という愛着を持った生徒

愛着は、情動、さらには他人とのコミュニケーションや対人的適応能力を発達させるための機能的準備系になると考えられる。
文部科学省
「情動の科学的解明と教育等への応用に関する検討会」

地域への愛着が社会生活の基盤をつくる

目指す力⇒社会人基礎力

（社会人基礎力を構成する3つの能力）

情報社会で生きていく力
⇒社会の中で豊かで充実した
人生を送るために必要な能力

「社会人基礎力に関する研究会」中間取りまとめより

地域という場での「共育」

1.人のくらしが息づいている場
2.高校生が頑張ることによって、動きを生み出すことが出来る、許容量の大きい場
3.多様な人との関わりによって、思いもよらないことが生まれる場
4.社会規範が生きて機能している場

「場」が次なる「場」を生む

３者の学び合い

つながりを補完する仕組み

教科情報」年間計画

4月	ガイダンス・SNS登録
5月	商店街ざっくり調査
6月	店舗調査・担当店舗決定
7月 8月	お店の良いところ探し （夏休み課題）
9月	活性化企画立案
10月	企画実施、ハロウィン準備
11月	企画評価、再立案
12月	再実施、再評価、報告書作成
1月	クラス内報告プレゼン
2月	校内発表会
3月	校外発表会

市高生がつくる ハロウィンイベントって??

市立伊丹高等学校3年
猪崎真理子・角山小夏・薮内雪乃
総合政策学部中條ゼミ4回　宮脇青空

2004年から市立伊丹高校中心にハロウィンイベントが開催されるようになった。
きっかけは阪神淡路大震災。平常時からいかに地域の人々とつながっておくかということを重視し、毎年開催され続けるこのイベントは2012年10月28日で第9回目を迎えた。

高校生が街の回遊性を創る!?
～ハロウィンイベントによる伊丹地域活性～

—2012年コンセプト
「人の流れ」と「交流」を作りだす

伊丹市が打ち出す「4極2軸」の政策にのっとり、イオンモール伊丹・ビバ商店街・ショッピングデパート伊丹の3つを拠点から回遊性を生み出し、同時に人との交流もつくりだす。

多様な広報

この他にも　Facebook・Youtube・専用HP・ラジオ番組の出演・ポスター・前日のプレイベントなど多岐に渡る広報が、認知度を大きく広める鍵となった。

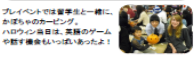
―「人をつなぐ」その秘密は　“高校生と地域の絆”

VIVA商店街
ゲーム会場
英会話教室の開催
留学生との交流
240 枚完売!!

チケット売り上げ枚数
60 枚完売!!
イオンモール
ダンス教室・
ダンスイベント
の開催

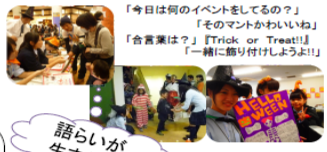
ショッピングデパート
2階から8階を使った
ゲーム会場
120 枚完売!!

参加した留学生の数
プレ 20人
当日 12人



プレイベントでは留学生と一緒にかぼちゃのカービング。ハロウィン当日は、英語のゲームや話す機会もいっぱいあったよ！

各会場を移動すると記念品をもらえるチケット返還数
54枚
14枚
15枚



「今日は何のイベントをしてるの？」
「そのマントかわいいね」
「合言葉は？」『Trick or Treat!!』
「一緒に飾り付けしようよ!!」

語らいが生まれる

地域の力を促す

高校生だからこそ。伊丹だからこそ。

- 高校生主体であることの強さ　若い力・感命さ
- 高大連携活動　大学生の強いバックアップ
- ハロウィンというイベント
  仮装・お菓子をもらえる→子どもにとって参加しやすい
- 工夫されたイベントやゲーム
  地域の人の協力を得たダンス教室・英会話教室のコラボイベント・高校生手作りのゲーム会場

―→ 他の地域・高校生でも可能か!?

伊丹のような地域の強い協力、またこういったイベントを、授業として受け入れることのできる教育環境が必要。「地域一体となる力をどのように築きあげていくか」。それがポイントとなるであろう。

（問い合わせ先）
伊丹市立伊丹高等学校
畑井克彦
TEL：
072-772-2040
e-mail：
hata3000@itami.ed.jp